

職場の教養

3

2025
MARCH

職場の教養

3月号

2025(令和7)年3月1日発行
(毎月1回1日発行)
第50巻1号 通巻519号

編集人 三浦貴史
発行人 和田毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jon.or.jp/>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込み・お問い合わせは、倫理法人会事務局へお問い合わせください。



一般社団法人 倫理研究所

今、世界では、異常気象による災害、食糧や資源の不足等、地球規模で人類の生存を脅かしかねない事態が発生しています。このような情勢下にあって、企業をはじめとする団体のリーダーには、不透明な先行きを見通す先見力、適切な判断力、事業を推進しようとする強靱な意志力、現状を打破する実践力等、多様な力が求められます。本講演会では、このような「経営力」を養うヒントを、倫理の観点から提案いたします。

テーマ 経営力を磨く

—小さなことから会社は変わる—

令和7年度 倫理経営講演会



倫理経営講演会は、1月～5月、経営者を対象に全国751カ所で開催します。

お問い合わせは各倫理法人会事務局へ(本誌巻末掲載)

倫理経営講演会
関連図書

経営における原理原則を掴み、より良い社風を創るために——経営者としての人間性を磨く

これが倫理経営

ダイジェスト・倫理経営のすすめ

定価500円(税込) 倫理研究所 B6判 98頁



既刊
倫理経営のすすめ

小さなことから会社は変わる

丸山敏秋 著

定価1,000円(税込)

本書は、全国の倫理経営講演会会場でお求めいただけます。

所属

氏名

今日の心がけ◆言葉に気を遣いましょう

言葉は相手に自分の思いや、感情を届けてくれます。それゆえ、使う言葉によって、自分や相手に対してプラスにもマイナスにも作用します。

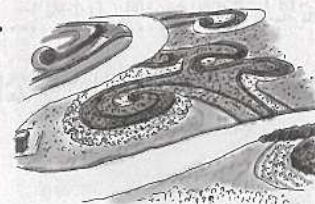
建築資材会社に勤務するAさんは営業部に配属後、三カ月の研修期間中に先輩に同行し、マナーや仕事のノウハウなどを必死に学びました。

その後は一人で営業先を訪問するようになり、商談を重ねるものの、なかなか契約につながりません。同期が成果を上げる中、焦りが募っていききました。

行き詰まったAさんは、先輩へ相談してみました。すると「同期と比べて焦る心をいったん置いて、しっかりと商談の準備をして臨むことが大切だよ。何事も真面目に取り組める君ならきつとできる!」とアドバイスをもらったのです。

先輩からの温かい励ましに自信を取り戻したAさんは、周りとは比べるのをやめ、今の自分にできることをコツコツ積み重ねていこうと誓ったのでした。

たった一言でも、人の心や行動を大きく変えることができます。良い人生を築くために、普段から話す言葉を大切にしたいものです。



イ、秋はコキアの紅葉など、四季折々に草花の移り変わりを感じられる。桜や紅葉の時期には夜間ライトアップも行なわれる。やわらかな光を受けた木々が、昼間とは違って変わった静謐で幻想的な世界を作り出す。

今日の心がけ◆継続する行動目標を決めましょう

積土成山とは、「少しの土も積み重ねれば山になる」ことから、小さな努力も積み重ねれば大きな成果を生むという意味の四字熟語です。

Yさんの職場では、朝礼の後に、五分程度オフィス内の清掃をしています。複数の雑巾やカーペットクリーナー、掃除機があり、各々が自分のデスク周りや共有スペースを綺麗にするのです。

結果として日常的な整理整頓の意識も向上し、おかげでYさんの職場は常に綺麗な状態が保たれています。時間にすれば五分程度の短いものでも、毎日継続して積み重ねていると大きな変化につながるのです。

一挙には成し得ないことや解決できない事柄も、今できる小さな取り組みを続けていけば、状況が大きく変わることもあります。目標達成や問題解決に向けては、長期的な視点を含んだ具体的な行動目標を定めたいものです。

清々しいスタートと綺麗な職場で働ける喜びを実感するYさんにとって、朝の清掃時間は、今やなくてはならないものになっています。

日本再発見! -花が楽しめる公園(日本編)-

こくえい もり こはんこうえん
国営みちのく杜の湖畔公園
(宮城県川崎町)

自然豊かな釜房(かまぶさ)湖の南岸に位置する。広大な敷地にはキャンプ場や自然共生園などがある北地区、中央の里山地区、花と緑が楽しめる南地区に分かれ、古民家、湖畔、花畑など多様な景観が広がる。春は菜の花や桜、夏はアジサ

今日の心がけ◆やめる勇氣を持ちましょう

「サンク・コスト(埋没費用)」という言葉があります。これまでに投入したお金や時間などのうち活動を縮小・中止しても、もはや戻ってこないものを指します。例えば、面白くない映画を観るために支払ったお金や、うまくいっていないプロジェクトにこれまでかけたお金や労力などがこれに該当します。人間は、このように取り戻すことができないコストに影響されて、不合理な選択をしてしまうことが知られています。

映画が明らかに面白くないと感じたのならば、視聴をやめて他のことをする方が有意義なのかもしれません。それにもかかわらず、支払った料金を惜しんで最後まで映画を見続けたくなってしまうのです。

人間には「すでにコストを支払ったのだから続けよう」と考える癖があるので、それゆえ、不要と思ったら、その行動を見直すことが大切なのです。日常生活の中で惰性で続けていることはないのでしょいか。定期的に点検し、変えるべきところは変えていきましょう。

五十代のA氏は、中学、高校、大学と学生時代を通じて野球に打ち込んでいました。毎年、日本のプロ野球やアメリカのメジャーリーグの開幕を心待ちにし、「今シーズンはどんなドラマが展開されるのだろう」と胸を躍らせています。

選手としてプレーしなくなってから三十年以上経過しましたが、A氏には今でも忘れられない言葉があります。それは、中学時代の野球部の監督の一言です。当時、主将を務めていたA氏が公式戦で敗戦濃厚な状況にあったとき、「今日は負けだな」と諦めかけていました。すると、監督が厳しい表情で「試合は終わっていないぞ。お前が諦めてどうするんだ」と叱咤激励したのです。

結局、試合には敗れましたが、悔しがる仲間に寄り添い励ましていると、監督から「今回の経験を無駄にするなよ」と諭されたのでした。

現在、会社内で中堅となったA氏は、仕事で苦境に立たされると、監督の言葉を思い出し奮起しています。人生の大きな勝利に向けて、職場人としてのA氏のプレーと挑戦に終わりは無いのです。

今日の心がけ◆逆境を前向きに乗り越えましょう

日本再発見! -花が咲く公園(日本編)-

たてしなこうげん
蓼科高原バラクライングリッシュガーデン
(長野県茅野市)

曲がりくねった小路に花が咲き、石塀や彫像、アーチ、ガゼボといった人工物と調和する。まるで物語の中に入り込んだような趣を漂わせる、情緒あふれる空間だ。ここは、1990(平成2)年にオープンした、日本初の本格的イングリッシュ

ユガーデンだ。園内にはテーマごとのガーデンが配置され、約1万㎡の敷地に5000種類をこえる植物が植栽されている。オーナーのケイ山田氏によるガーデニングスクールも行なわれており、庭づくりを学べる場としても人気だ。



今日の心がけ◆身の回りの物を大切に扱いましょう

「資格を取ってスキルアップを図りたい」「○○さんのようになりたい」など、様々な目標や理想を持って業務に取り組んでいる人も多いでしょう。二〇二三年に行なわれたWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で監督を務めた栗山英樹氏は、「描いた理想を実現するためには『なりたい』ではなく、『なる』と言いつけることが大切である」として、次のように述べています。「『なる』となったらどうなるのかというと、練習が変わってくる。毎日が変わってくるのです。そうならなければいけないわけですから、最低限これはやっておかないといけないな、となる」

「なる」と言いつけることは心を決めることと言っているでしょう。「決心は九分の成就」という言葉もあります。誰もが何かしらの理想像を持っているでしょうが、心が定まらなければ具体的な行動に移せません。心を定め、将来の理想像から逆算することで、自分のやるべきことが明確になります。「なりたい自分になる」ために、日々努力を重ねていきましょう。

今日の心がけ◆やるべきことを明確にしましょう

持続可能な社会が求められ、物や道具も長く使うことが推奨されています。Aさんは家族と相談し、中古車を買うことにしました。条件に合う車をインターネットで検索し、実際に足を運んで車の状態を確認しました。そこで、使用年数や走行距離が短く、車体や内装がきれいな車を探していました。

その中で、年数が比較的長く、走行距離も多いにもかかわらず、同じような条件の他の車に比べて明らかにきれいな状態の車がありました。その様子から以前の所有者が大切に乘っていたことが感じられたのです。

同時にAさんは、自分の身の回りにも思いを巡らせました。普段仕事で使う道具や機械、日常生活で身につけている服や靴などの状態を思い浮かべると、大切に使用しているとは言いがた、申し訳ない思いが湧いてきました。

最終的に、Aさんは先ほどのきれいな状態の車を購入しました。前の所有者と同様に大切にしようと思うと共に、自分の身の回りの物や道具も大切にしてくる決意をしたのでした。

日本再発見! -花が楽しめる公園(日本編)-

とっとり花回廊 (鳥取県南部町)

鳥取の名峰・大山(だいせん)を背景に、四季の花々が地上を覆い尽くす。鳥取県中部にある日本最大級のフラワーパークだ。メインの花はユリで、何と世界で確認されているうちの半数近くの種を栽培しているという。ユリは、球根を特殊

な方法で冷蔵処理することによって開花時期を調整し、一年中満開の花を楽しめるようになっている。そのほかにも、直径50m、高さ21mのガラス温室「フラワードーム」では洋ランや熱帯植物、観葉植物が展示されている。



本文参考資料「『きつ切る力』栗山英樹著/講談社

今日の心がけ◆仕事に集中できるように切り替えましょう

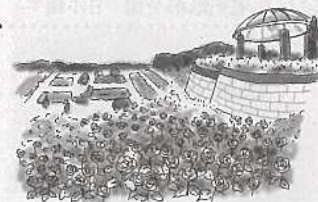
「心残り」や「後ろ髪を引かれる」といった言葉は、後悔や未練が残る状態を表わします。こうした感情は誰もが経験するものでしょう。失敗や行動を起こさなかったことに対する後悔や未練は、その人の心を支配することがあります。

人には「心」があり、その動きによって感情が生じます。強い感情にとらわれると、思考や行動が鈍り、「心ここにあらず」といった状態になりがちです。こうした状態が、大小のミスの原因となることがあります。

うっかり確認作業を怠ったり、必要な工程を省いたりすると、大きな損害や人命にかかわる重大な事故を引き起こしかねません。

例えば家庭でも、夫婦喧嘩や子供を厳しく叱った後、そのことが心に残り、出社後も思考や行動に影響を及ぼすことがあります。

こうした状態を避けるために、朝礼時に「ここからは仕事に集中する」と心を切り替えましょう。心を今ある業務に連れ戻し、集中していききたいものです。



今日の心がけ◆よりよい仕事を目指しましょう

「いぶし銀」という言葉は、華やかさはないけれども、実力や魅力があることを表現します。Tさんの職場にも、その言葉通りの力を発揮する先輩がいます。

ある日、Tさんが顧客からの苦情電話に困り果てていた時のことです。先輩が対応すると、わずか数分で先方は納得し、電話は終了しました。

傍で聞いていたTさんは、説明している内容はほとんど変わらないのになぜ相手が納得してくれたのか、とても不思議に感じていました。

また、同じ作業を行なっても、その先輩の仕上がりの方が美しく、上司から指示される仕事の理解度も先輩の方が正確で早いのです。

その理由は今もわからないTさんですが、確かに実感したことがありました。それは、仕事には想像を超える技術や力があるということです。

「コツ」や「勘」といった言葉にできない仕事の感覚は、多様な経験を積み重ね、じっくりと時間をかけて練り上げられていくものなのでしょう。

自分の仕事の奥深さに意識を向け、より高度なスキルを追求したいものです。

日本再発見!—花が楽しめる公園(日本編)—

霧島ヶ丘公園
(鹿児島県鹿屋市)

広大な敷地にところせましとバラが咲き、立ちのぼる香りが鼻をくすぐる。鹿児島湾を望む高台に位置する広大な公園で、園内には日本最大級のバラ園である「かのやばら園」がある。ここには世界から3万5000株ものバラが集まってお

り、春と秋に開催される「かのやばら祭り」は多くの来園者で賑わうイベントだ。そのほか、園内には鹿児島湾や桜島を眺望できる展望台やゴーカート場などがあり、家族連れでのんびり過ごすのに最適だ。

旅行や出張で電車を利用する際、駅弁を楽しみにしている人は多いでしょう。そのお供に欠かせないお茶は、現在では缶やペットボトルが主流ですが、一九五〇年代までは陶器製の「汽車土瓶」で飲まれていました。汽車土瓶が初めて販売されたのは一八八九年のことで、日本で最初に駅弁が誕生した四年後のことです。

諸説ありますが、静岡駅の駅弁屋が、素朴な風合いで知られる信楽焼の土瓶に静岡茶を入れて売ったのが始まりであると言われています。

その後、益子焼や瀬戸焼、美濃焼、有田焼など、窯業が盛んな地域でも大量に作られるようになり、多種多様な土瓶が誕生し、多くの人に親しまれました。

汽車土瓶は、使用後に碎いて土に戻していたため、「使い捨て容器」の先駆けとも言われていました。土瓶は素材を自然に還すことのできる優れた商品ですが、重くて割れやすいため、次第に姿を消していきました。

それでも、旅に彩りを与えた先駆的な商品であったことは間違いありません。

今日の心がけ◆身近な物の歴史を知りましょう

富と共に社会を支えた

有徳人

／歴史の中で「利他の精神」に生きた人々／



今回は奈良時代に活躍した高僧、行基にまつわるエピソードをご紹介します。

彼は民衆の中に入って布教活動が続けながら、各地で農業用の溜池や用水路の整備、架橋など、現代でいえば公共事業に尽力していました。当初、その活動は政府から圧迫を受けました。たとえば、川に橋を架けるといった行為は人々の移動を活発にするため、律令制に弊害をもたらすと考えられていたのです。しかし、次第にその地道な実績が認められるようになり、人民の暮らしが向上し、農業の生産性アップにも寄与したからでしょう。

行基の様々な事業を熱心に支えていたのが、地元の人や信濃という人物がいました。もともと彼は和泉郡（現在の大阪府和泉市あたり）の郡司でした。ある時、発心して行基に入門し、ただ仏道に励むだけではなく、多くの開発事業にも助力しました。溜池や用水路を建設するには多大な費用がかかります。場所の選定や用地確保など煩瑣な手続きも必要です。

大勢の作業員も雇わねば工事は進みません。元郡司の信濃は、かつての経験と人脈を活かしてこうした問題を解決していったのでしょう。民衆の救済という行基の熱い理念を地域に根付かせ、実現できたのは、郡司層出身の弟子や行基らを慕う郡司層の努力と、彼らが蓄えた豊かな富があったからです。

和泉国大鳥郡（現在の大阪府堺市あたり）では「知識」と称するグループが写経をしていました。知識とはこの場合、仏教を信じる人々の集まりのことです。写経には莫大な費用がかかり、その写経事業を主導していたのが、大檀越と呼ばれる当地の郡司・名麻呂でした。この辺には行基が造成したという巨大な溜池があり、工事には写経グループも大いに協力したようです。

また、河内国（現在の大阪府南東部）でも同じような写経事業が豪族や郡司層を中心として進められました。同時に二つの郡を巻き込んだ架橋プロジェクトが完成し、主要な街道がつながりました。このようにして、架橋や溜池造成など巨大建設事業に郡司層の信仰心と富が活かされたのです。

第3回

行基を慕い、溜池を造り、橋を架ける

伊藤善資

U T O K U N I N